

懐かしの名古屋市市政資料館

毎日新聞 7月5日「日曜くらぶ」レトロの美に、名古屋市市政資料館が紹介されていた。懐かしさのあまり、写真におさめた。まずは、資料館の案内から。

名古屋市役所から東へ歩くと、閑静な公園内に威風堂々としたたずまいの名古屋市市政資料館（東区）が現れる。

外壁の赤れんがと白い花こう岩のコントラストが美しい同館は、1922(大正11)年に当時の名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所として建設された。戦後は名古屋高裁・地裁として79(昭和54)年まで使われていた。市は裁判所の移転に伴い旧庁舎を取り壊す計画だったが、市民から保存を望む声上がり、方針を転換した。84年に国の重要文化財に指定され、翌年、保存修理工事が開始され、89(平成元)年に開館した。

ドーム屋根の塔屋を中央に、両端にある寄せ棟造りの屋根を配した左右対称のデザインは、19世紀後半のヨーロッパ建築のネオ・バロック様式を日本風に取り入れたもの。正面玄関から2階に上がると、吹き抜けの中央階段室が広がる。ステンドグラスから差し込む陽光に照らされ、大理石の階段や柱が浮かび上がる荘厳な造形美に歴史の重さを感じた。

ここには、名古屋市立女子短大で教えていた頃、ゼミ生らを連れて、よく見学に来た。

短大はバスで東に10分ほどのところにあり、便利がよいこともあった。市政資料館なので、2階のコーナーには名古屋の歴史と市政の歩みなどが展示してある。

控訴院の裁判風景、地下には留置場もあり、法律に興味のある学生にも好評だった。写真の中央階段室で、ステンドグラスを背景に、ゼミ生と写真を撮ったものだ。名古屋市立大でも、現代都市問題などの講義のときに、金山の名古屋都市センターとともに、市政資料館を紹介した。

市政資料館で今でも忘れられないことがある。資料館の前に「ウィルあいち」という大きな会館がある。ここで1999年3月に「日本環境会議名古屋大会」が開催され、私が事務局長をつとめた。挨拶のなかで市政資料館の歴史などを紹介し、休憩時間などに見学を案内したら、なんと好評で拍手をもらった。

(2020年7月9日)

